

豊中市立図書館における読書バリアフリーの取り組みのあり方について（報告）

令和5年（2023年）6月

豊中市立図書館協議会

## 目次

はじめに .....	1
I 豊中市立図書館の読書バリアフリーの取り組みについて .....	2
II ヒアリングの実施について .....	2
III 今後のあり方について .....	3
IV 豊中市（仮称）中央図書館基本構想について.....	11
おわりに .....	13
資料 .....	14

## はじめに

障害の有無に関わらず、全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に向けて、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）が令和元年（2019年）に施行されました。この法律に基づき、国は「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」（読書バリアフリー基本計画）を策定し、そのなかで「公立図書館等における障害者サービスの充実」を掲げています。

豊中市では令和3年（2021年）2月「豊中市（仮称）中央図書館基本構想」（以下、「基本構想」という。）を策定し、社会状況や図書館を取り巻く環境が変化するなか、将来にわたり安定的に図書館サービスを提供し、豊中市立図書館が地域において求められる役割を果たすための指針を示しました。それに基づき豊中市立図書館では、市民の知る権利や学習する権利を保障する機関のひとつとして、読書バリアフリーの取り組みを含めた図書館サービスの提供に取り組まれています。

基本構想では多様化する図書館ニーズやデジタル化への対応を盛り込んだ基本方針が示されるとともに、今後の豊中市立図書館のめざす姿として基本コンセプト「つながる。わたしの図書館で。」が提起されています。このコンセプトには、市民が障害の有無に関わらず等しく自分なりに図書館を使うとともに、市民一人ひとりにとって、図書館が楽しみ、つながることのできる場や機会となるよう、その責任と役割を果たしていくという思いが込められています。すべての人の「わたしの図書館」をめざす時、図書館利用に障害のある人<sup>\*1</sup>を対象とした、読書バリアフリーの取り組みが重要になるのは言うまでもありません。

本協議会では令和3年（2021年）7月岡町図書館長から諮問を受け、基本構想に掲げる図書館サービスの実現と変化する社会の動向に照らし、これからの豊中市立図書館における読書バリアフリーの取り組みのあり方について協議を重ねてきました。

そのなかで重視したのは次の3点です。

- ◎ 図書館利用のバリアを取り除くとともに、市民の情報アクセスを保障すること
- ◎ 当事者の声をサービスに反映させること
- ◎ 読書バリアフリーの取り組みを通して、社会のなかでの多様性への理解を進めること

これらを踏まえ、図書館は多様化する図書館ニーズやデジタル化に対応し、これまでの成果を継承しながら、読書バリアフリーの取り組みを発展させていく必要があると考えます。2年間の検討内容を整理し、ここに報告します。

\*1 図書館利用に障害のある人：豊中市立図書館では、障害者サービス規程に基づき、読書バリアフリーの取り組みを行っています。規程に「図書館利用に障害がある人々が図書館すべての資料を利用できるように、物理的・心理的な配慮をし、次のようなサービスを行う」とあるように、読書環境の整備にあたっては、心身障害者、施設入所者、入院患者、高齢者、外国人等、さまざまな状況により読書や図書館の利用に困難を伴う人へ配慮したサービスの提供をめざします。

## I 豊中市立図書館の読書バリアフリーの取り組みについて

豊中市立図書館では昭和48年（1973年）に障害者サービス（対面朗読）を開始、昭和50年（1975年）には岡町図書館に点字図書コーナーが開設されました。

現在、図書館では印刷された文字資料を利用しにくい人のための資料として点字図書や音声デージー図書\*<sup>2</sup>（録音図書）、マルチメディアデージー図書\*<sup>3</sup>、大活字本、さわる絵本、やさしく読みやすいLLブック\*<sup>4</sup>、読み上げ機能に対応した電子書籍（豊中市デジタル図書館）、音声解説付き映像資料など、多様な形態の資料を所蔵しています。

また障害のある人が図書館資料を利用できるようにするために拡大鏡や拡大読書器、リーディングトラッカー\*<sup>5</sup>などの読書支援機器を提供するとともに、障害のある利用者との意思疎通を円滑にするためにコミュニケーションボード\*<sup>6</sup>やヒアリングループ\*<sup>7</sup>などの機器が用意されています。施設面では障害者用駐車スペース、誘導チャイム、多目的トイレなどの設備が整備されているほか、サービス面ではリモートでの実施も可能な対面朗読サービスや宅配貸出・郵送貸出の実施、支援学校等への動く図書館の巡回など、図書館に行くことが困難な人に配慮したさまざまな取り組みが実施されています。（主な取り組みは別表1を参照）

- \*<sup>2</sup> 音声デージー図書：国際基準デージー（DAISY）規格によって製作されたデジタル録音図書。
- \*<sup>3</sup> マルチメディアデージー図書：音声に加え、テキスト（文字）や絵図などを収録したデジタル資料で、読み書き障害や自閉症など、活字による読書が困難な人に配慮した図書。
- \*<sup>4</sup> LLブック：誰もが読書を楽しめるように工夫してつくられた、やさしく読みやすい本。「LL」はスウェーデン語に由来する。
- \*<sup>5</sup> リーディングトラッカー：文字を読む際に添えて使用することで読みにくさを軽減するよう工夫された読書支援定規。
- \*<sup>6</sup> コミュニケーションボード：聴覚障害などで声によるコミュニケーションが困難な人に文字や絵で意思疎通するために用いる器具。
- \*<sup>7</sup> ヒアリングループ：マイクを通した音声を直接補聴器や人工内耳に届けられる器具。磁気誘導ループ、磁気ループとも呼ばれる。

## II ヒアリングの実施について

本協議会では、豊中市立図書館の障害者サービスが具体的にどのように利用されているのか、またどのようなことが期待されているのかを知るために、当事者や支援者からヒアリングを行いました。図書館利用に障害のある人のうち、主に視覚障害、聴覚障害、肢体不自由により図書館利用に困難のある人にご協力いただきました。ヒアリングを通して現在の取り組みについては評価されている点を確認できた一方で、周知不足やさまざまな改善点などの課題把握につながりました。

ヒアリングの結果は、点訳図書製作期間の短縮や「耳マーク」の掲出場所の追加など、すぐに

サービス内容の改善に反映されたものもあります。また点字資料、録音資料の制作ボランティアからは、自分たちが制作した資料がどのように活用されているのかといったことを知って、新たな資料製作に反映させるためにも、利用者の声や利用実績（統計）などの情報提供を通じて、図書館が製作者と利用者をつなぐ役割を果たすよう求める意見もありました。

今後はヒアリング結果をさらに活用するとともに、図書館として対話を継続し、読書バリアフリーの取り組みに当事者や支援者などの意見が反映されるよう努めることが必要です。（主な内容は別表 2・3 を参照）

### **Ⅲ今後のあり方について**

今回、当事者へのヒアリングや障害福祉担当課職員から市の施策に関する説明を受け、豊中市の現状について理解を深めました。

図書館が読書バリアフリーに取り組んでいることを多くの市民が知ることで、社会にあるバリアの存在やそうしたバリアを解消する必要性を市民全体で共有することができます。また図書館で取り組まれている具体的な障害者サービスの内容に触れることは、障害のある人の置かれている情報環境についての理解を深めることになるはずです。図書館の読書バリアフリーの取り組みは社会のなかでの多様性への理解を進めることにつながると考えました。

そこで次の 6 つの項目を今後のあり方を考えるための主要なポイントとして位置付けることを本協議会から提起します。これらを踏まえることで市民に対する情報アクセスの保障に図書館が積極的な役割を果たすよう期待します。

- (1) 図書館は図書館利用に際してのバリアを取り除くとともに、情報アクセスを保障する
- (2) 市民（当事者含む）の意見を取り入れる
- (3) 図書館の取り組みを通して、社会のなかでの多様性への理解を進める
- (4) ニーズの変化や新しい動きに柔軟に対応できるようにする
- (5) 職員の資質向上をめざすと同時にボランティアを支援し、サービスの継続性を保つ
- (6) 市民（ボランティア含む）や関係機関との連携によりサービスの充実を図る

#### **(1) 図書館は図書館利用に際してのバリアを取り除くとともに、情報アクセスを保障する**

これまででも図書館における読書バリアフリーの取り組みは、図書館や図書館資料を利用する上でのバリアを取り除くために実施されてきました。それらを踏まえ、豊中市立図書館の使命・理念に掲げられている「すべての市民に知る自由を保障すること」を支える取り組みのひとつとして、市民の情報アクセス保障という観点からも今日取り組まれています。

例えば情報アクセスを保障する事例として、対面朗読では図書館資料をボランティアや職員が市民の代わりに音読し、対面で聞く人に耳で読書する機会を提供しています。それに加えて図書館資料以外の市役所からの文書や広告チラシなどの代読も行っており、利用者ヒアリングのなかでその点を豊中市の対面朗読の特長に挙げる声もありました。近年では web 上の情報に関する問い合わせに応じて、動画視聴サイトなどの情報を確認し、内容を読み上げ、当該サイトやコンテンツにアクセスする方法を伝えることも増えているとのこと。多様化するメディア環境に合わせて、図書館資料に限定することなく利用者の要望に応じて対面朗読を実施している豊中市の特長が発揮され、利用されています。

こうした取り組みに対し実際にサービスを利用する立場にある人からヒアリングを行い、次のような意見や要望をいただきました。

読書方法や情報アクセス手段に関しては、どのような資料があるのかを知るための資料目録の必要性や、音声操作支援機能の付いた蔵書検索機の設置、多機能型の拡大読書器への更新について要望があるとともに、なかには家族や学校司書など周囲の人の協力を得て情報にアクセスしている様子を知ることでもできました。

対面朗読については対面朗読室を複数確保することや配置場所に関する要望、またリモート対面朗読<sup>\*8</sup>を利用する上での感覚に個人差が大きいこともわかりました。音声デージー図書を読むための機器（プレクストーク<sup>\*9</sup>など）の設置や、スマートフォンなどの読書機器を習得するための機会を必要としている意見もありました。

以上を踏まえ、デジタル化の進展によりデジタルデバイド（情報格差）が社会問題として扱われるなか、図書館が提供する市民の情報アクセスを保障する取り組みによってデジタルデバイドの解消に資することを期待します。

その他、主なご意見・ご要望を表に整理します。

\*8 リモート対面朗読：web 会議システムを用いて、図書館に来館せずに利用できる対面朗読。

\*9 プレクストーク：デージー図書を読むための機器。CD や SD カードに保存したデータを読み取らせ、視覚に障害のある人などの音声での読書を支援する機器の 1 つ。

テーマ	主な聞き取り内容
読書方法 情報アクセス手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡町図書館の4階の点字図書室は資料を探し方がない。サピエに加入していない人も、図書館だけを窓口に行っている利用者も多い。目録の整備が必要だと思う。</li> <li>・図書館に行くメリットは、検索でなく自由に本が選べること。でも本がいっぱいあるので逆に選ぶのが難しい。新刊だけでも目録があれば便利。</li> <li>・館内に滞在して読書するためには入力した内容を音で知らせるパソコン（館内蔵書検索機）があるとよい。新しい拡大読書器（拡大、音声化、印刷できる機器）が図書館に置いてあっていつでも使えると助かる。</li> <li>・市の広報も墨字版を家族が読んでくれる。学校司書がそれ（点訳図書の新着情報のことか）を見て紹介してくれる。</li> <li>・サピエ図書館を利用することで、視力を失う前よりたくさん読書するようになった。就寝前や移動中に聞くこともできて便利。</li> <li>・定期的に家族が借りてきてくれるものの中から読書している。気に入ったものを借りて</li> </ul>

	<p>きてくれるとは限らない。絵手紙、相田みつを、料理の本というように自分の関心のあ るテーマを伝えておくこともある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホが使えなくても、サピエ利用に適したリンクポケットで図書を読むことはできる が、これも通信環境に影響される。</li> </ul> <p>【用語】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※サピエ、サピエ図書館：サピエ図書館は、視覚障害者等が利用しやすい電子書籍のデー タや、どこの図書館が所蔵しているのかという情報をインターネット上で集約し、視覚 障害者や点字図書館、公共図書館などの施設が利用できるようにした電子図書館。その 電子図書館サービスを含む、支援事業のネットワーク事業が「サピエ」。</li> <li>※リンクポケット：携帯可能な小型のデイジー図書を読むための機器。インターネットに 接続して、使用することもできる。</li> </ul>
対面朗読 リモート対面朗読	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が来館しやすい場所にリーディング室（対面朗読室）は設けるべき。出張所など の市の関連施設や、利用者自宅で実施してもよいのではないか。</li> <li>・やりたいときに出来るように対面朗読室は複数あるといい。視覚障害者一人でも行ける ように入り口近くや障害物のない場所に作ってほしい。</li> <li>・図書館では、持ち込みの資料を読んでもらえるので助かっている。</li> <li>・リモートでの対面朗読は機器の操作を教えてくれる人がいないとできない。多くの人 が使用している OS も古いので、対応が無理だと思う。スマホなども生活用具に含まれる よう要望している。支援してくれる人があると頼れるが、そうでないと誰が面倒を見る のか。</li> <li>・リモート会議システムを用いた対面朗読は、利用してみたが違和感が強かった。声だけ では、相手を認識できないため、今後利用しようとは思わない。</li> <li>・移動にかかる時間が不要なため在宅利用できる点でかなり便利。継続してリモートでの 対面朗読を利用したい。</li> </ul>
読書機器の多様化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声デイジー図書は置いてあるのに再生するための機械が無い。利用者が機器を持って 来ないと聞けないのはおかしい。一緒に置いておくべき。</li> <li>・スマホでデイジー図書が読めるよう使い方を教えて欲しい。対面朗読で使い方について 取扱説明書を読んでもらいながら使えるよう支援してほしい。</li> </ul>
豊中デジタル図書 館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子書籍目録がなく、どんな本を所蔵しているかわからないので利用できない。</li> <li>・電子書籍が利用できるのは知らなかったが、テキスト版サイトもあり非来館型のサービ スで便利だと思う。</li> </ul>
図書館内環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡町の点字図書室について、ジャンル名を本棚に掲示してはどうか。棚の厚みがあれば、 点字テープで貼ることができると思う。「日本の小説」といった点字表記があれば良い。</li> <li>・出入り口に受付・案内のスタッフがいるのが望ましい。</li> <li>・聴覚が働かないことで、視覚にはより負担がかかる。掲示の文字も一定以上の大きさが 確保されていると良い。</li> </ul>
読書案内 情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本点字図書館の「セレクトパック」のようなサービスを豊中もやれば良い。</li> <li>・図書館からの新刊案内は、図書の最新情報という面と、流行りを知るという面と両方で 役立っている。</li> <li>・（宅配利用）年齢別の推薦図書など、HP も活用して知らせてもらえるとう活用したい。</li> <li>・見える人は斜め読みじゃないけど、ちらっと面白い本か判断できる部分があると思うが、 見えないと同じようにできないため難しい。</li> <li>・新刊情報は、サピエ、日本ライトハウス、点字毎日、大阪府立中央図書館で見ている。 市立図書館からも情報が届く。日本ライトハウスや大阪府立中央図書館は登録をしてメ ールでの配信になるので、PC やスマホが使えない人は利用できない。</li> </ul> <p>【用語】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※にっせんセレクトパック：日本点字図書館が取り組んでいる、ベストリーダーや世界の 小説など特定テーマの図書データをダウンロードして、データをまとめて希望者に提供 するサービス。</li> </ul>
筆談・手話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの絵本や動画に、手話の字幕を付けて、提供してはどうか。</li> <li>・手話をテーマにした絵本も出版されている。（「手話ではなそう」シリーズ）探し絵を楽 しむように、手話に触れ、学ぶことができる。</li> <li>・中途失聴者が手話を身につけるのは簡単ではない。筆談や文書による伝達は正確性の点 からも求められている。</li> <li>・映画会や落語会に手話通訳を付ける場合は、台本をあらかじめ通訳者に提供しておく ほうがよい。</li> </ul>

## (2) 市民（当事者）の意見を取り入れる

近年、読書バリアフリー法（令和元年）の成立や、ICT などの飛躍的な技術進歩と実用化が進み、図書館も多様な読書を支えるためのサービスを拡充していくことが求められています。読書を取り巻く環境が急速に変化していくなかで、図書館を利用する人や利用しようとする人がどのような困難を感じているのかを知り、そこから明らかになるバリアを取り除くための取り組みを図書館サービスとして具体化することも必要になります。

本協議会が今回行ったヒアリングを通して、(1) で取り上げた内容以外にも、同じような悩みを持つ当事者同士による情報交換の機会の必要性や、周囲からの適切な情報提供などのサポートによって乗り越えられるバリアのあることが確認されました。基本構想にもあるように、多様な意見を取り入れて市民の「わたしの図書館」を実現することが求められています。ヒアリング結果を活用することはもちろん、今後もヒアリングやワークショップなどの機会を設け、市民との対話を通し、利用者の要望に沿った図書館の取り組みを充実していく必要があります。

その他、関連する主なご意見・ご要望を表に整理します。

テーマ	主な聞き取り内容
読書方法 情報アクセス手段	<ul style="list-style-type: none"><li>・普通に生活していると教えてもらわないと情報が得にくい。</li><li>・豊中市でもスマホやPCを使う人、使えない人の差が大きくなっているので何とかしないといけないと思っている。講習会に参加したくらいでは、使おうというところまで進まない。</li></ul>
点字図書	<ul style="list-style-type: none"><li>・読むものが残っている間に次を用意している。返却について、郵便局以外にコンビニなど対応可能な窓口が広がった。返却時の集荷などのサービスがあれば今後自立した時に助かる。無料なのはとても有り難い。</li><li>・読めるタイトルが少ない。完璧じゃなくてもいいので、完成スピードが早い方がいい。周囲の話題について行けるなど、今読みたいものをすぐに入手できるようになればと思う。視覚障害者自体少ないので需要と供給が伴わないのかもしれないが。</li><li>・点字は視覚障害者の文字という意識があり、もっと利用のすそ野を広げたい。</li></ul>
読書機器の多様化	<ul style="list-style-type: none"><li>・機器の講習会を最寄りの図書館でして欲しいというニーズはあると思う。当事者が教えてくれるような場になるとなお良い。</li><li>・スマホもパソコンも使い始めの頃、日本ライトハウスへ講習を受けに行った。講習を受けないと使用方法が特殊なので、他の人に聞けない。</li><li>・機器の使用感など交流しながら、情報交換できる機会があれば参加してもよい。</li></ul>
障害者用資料の製作	<ul style="list-style-type: none"><li>・Youtube で自動車に関する情報を得ているが、目でしか分からない情報が多い。外観や内装、ボタン装置の解説など細かい情報が掲載されている本や雑誌をリクエストで音訳図書にしてもらえると嬉しい。</li><li>・プライベート音訳サービスはかなり時間がかかる。それよりもテキスト化サービスを導入したらどうか。図書をスキャンしてテキストデータにするサービスがあると良い。</li></ul>

## (3) 図書館の取り組みを通して、社会のなかでの多様性への理解を進める

本協議会では、図書館サービスや障害者用資料に接することを通して、利用に障害のない人が社会のバリアを知るきっかけになり、それについて考え、理解する機会を提供できる側面に着目しました。例えばひとつの作品が点字図書や音声デージー図書、マルチメディアデージー図書、さわる絵本、外国語への翻訳など、それぞれ異なった読書のかたちに対応した複数の形態で製作



されています。そのような図書館資料の多様性に触れることをきっかけに、市民の多様性への気づきにつながる可能性があります。

ヒアリングでは、サービスを必要とする人に図書館の取り組みや利用方法など適切な情報が伝わっていないことを指摘する声もありました。図書館にはいろいろな機会を活用し、丁寧に情報提供することが求められます。

こうした意見を受けて、点字図書やマルチメディアデージー図書、大活字本、さわる絵本といった障害者用資料の展示や、サピエ図書館（障害者用資料を扱う電子図書館）などの紹介が一般フロアで定期的に取り組みられるようになりました。多くの人に障害者用資料を知ってもらうことは、障害についての理解を深めることにつながります。引き続きサービスを必要とする人への情報提供を充実させるとともに、多様性への理解につながる取り組みを進めることが必要です。

関連する主な聞き取り内容を表に整理します。

テーマ	主な聞き取り内容
対面朗読	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回利用していて、ボランティアとの合間の休憩の雑談や、行き帰りの送迎時にする職員との会話も含めての対面朗読という認識で、楽しみにしている。対面朗読はそういう時間も大事なので、人と人とのふれあい、茶飲み話込みで考えている。</li> <li>・朗読者が下読みをしているのは有難い。知らないことの下調べや、図表の読み方などあらかじめ工夫してくれている。対面朗読は同じ図書を一緒に読みといていく感覚が、サピエなど音訳図書を読む場合とは異なっている。</li> </ul>
シネマデージー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シネマデージーなど、防音で良い音で聞ける部屋が利用したい人が複数いても同時に使えるようにいくつかあるといい。晴眼者と障害者分けずにどちらも使えるようにしたらいい。</li> </ul>
図書館内環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・府立中央図書館のイベントスペースを利用することもあったが、気軽に使えて一般の人にも知ってもらえる空間なのが良く、高知声と点字の図書館も、1階に視覚障害者用の閲覧スペースがあり、来館者の目につくロケーションになっていて良かった。</li> </ul>
市民、職員との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の集会室で集まって、いろいろな絵本やストーリーテリング（語り）を楽しんでいる。点字で覚えたお話を語ることもある。</li> <li>・障害福祉センターひまわりでの点字講習会ははじめ、視覚部会の活動により社会と関わり、充実感を得ている。</li> <li>・対面朗読の来館時に朗読ボランティアや図書館職員との交流も貴重な体験だった。図書館サービスの発展につながるようなことには協力したい。</li> <li>・（対面朗読）ボランティアが長く固定している良さは、細かいところの確認はしなくても意思疎通ができること。</li> </ul>
読書案内情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（対面朗読の実施について）当事者には意外と知られていないのではないか。図書館サービスを紹介するためのイベントと当事者が企画するようなイベントを啓発的に行ってはどうか。以前に岡町図書館でも実施したようなイベントが定期的で開催できれば来館も増え、最寄りの図書館で対面朗読が受けられると知れば、次からは利用してみようという人もいると思う。</li> <li>・（利用案内の必要性）宅配貸出や郵送貸出の利用に必要なものはあるか。冊数なども知りたい。</li> </ul>

#### （４）ニーズの変化や新しい動きに柔軟に対応できるようにする

読書環境のデジタル化が進み、著作権法や読書バリアフリー法など関係法令などの整備が進められるなか、図書館が新しく提供する必要のある取り組みも多様化していくことが見込まれます。

それらに適宜対応し、細かなニーズに応えられる柔軟性も必要になります。ヒアリング結果を見ても、例えば情報機器を使いこなしてインターネット経由での読書がされている一方で、使い慣れたカセットテープ図書のニーズがあることを考慮すると、ただ新しいものに置き換えれば良いという訳ではないことに留意が必要です。また、中央図書館に機能集約することによる弊害を心配する声や、対面朗読を利用する際のボランティアや職員との交流を評価し、最寄りの図書館で利用できる機会を残すよう求める声もありました。

求められていることは、決して一律のものではありません。利用者一人ひとりの障害の状態や生活環境などによって、図書館に要求されるサービスは異なったものになります。利用者にあったサービスを提供できるよう図書館は柔軟に対応する必要があります。

関連する主な聞き取り内容を表に整理します。

テーマ	主な聞き取り内容
リモート対面朗読	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事でリモート会議システムも使っているが、リモートでの対面朗読は、プライベート録音で音訳データを渡してもらうのと大差ないと感じるので、あまり利用しようとは思わない。メニューとして選択できるようにしてあることは望ましい。</li> </ul>
点字図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読むものが残っている間に次を用意している。返却について、郵便局以外にコンビニなど対応可能な窓口が広がった。返却時の集荷などのサービスがあれば今後自立した時に助かる。無料なのはとて有り難い。</li> </ul>
録音図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・録音図書がカセットテープの時は速読できるのでカセットテープを選ぶこともあった。</li> <li>・現在の読書は主に点字図書。音訳は速度についていくことが必要だし、聞き始めると音訳のほうに偏りかねないため、読める間は点訳での読書を続けさせたい。</li> </ul>
読書機器の多様化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害者でも Youtube など上手に使いこなしている人もいて、感心している。利用できる人、できない人の格差は広がっていると思う。図書館のサービスとして機器を利用できる環境を提供するというのも意味があると思う。</li> <li>・ICTの利用は個人差があるが、パソコンも使っていたのであまり問題なかった。スマホは使えていないので、技術の進歩に取り残されつつあるとは感じている。機器の利用については視覚障害に関係なく課題だと思う。</li> </ul>
障害者用資料の製作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読めるタイトルが少ない。完璧じゃなくてもいいので、完成スピードが早い方がいい。周囲の話題について行けるなど、今読みたいものをすぐに入手できるようになればと思う。視覚障害者自体少ないので需要と供給が伴わないのかもしれないが。</li> </ul>
図書館内環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アップルウォッチを使いこなして行動している人もいる。将来的に信号と連動した機能が備わるという話も聞くが、バグのない安全な状態で使えるのかどうか気になるところ。</li> </ul>
市民、職員との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話により希望図書を依頼している。電話により図書館職員と会話できるのも良さと感じている。</li> <li>・手話によるコミュニケーションが可能な人は聴覚障害者の中でも多数派ではない。中途失聴者が手話を身に付けるのは簡単ではない。補聴器の性能にも限界があり、筆談によるやり取り、文書による伝達は正確性の点からも求められている。(手話による対応が不要という訳ではない)</li> </ul>

#### (5) 職員の資質向上をめざすとともにボランティアを支援し、サービスの継続性を保つ

質の高い図書館サービスを提供するためには、図書館についての専門的な知識と技術を持った職員（司書）が不可欠です。読書のバリアフリーに関わるサービスにおいても、図書館利用や情報アクセスに関わるバリアについての知識や、障害者及び障害者用資料に対する理解を深め、そ

れに基づき柔軟に対応する能力と熱意をもって障害者サービスに取り組む職員を育てることが基本です。そのためには日常業務での研鑽や専門的な研修が行われる必要があります。市民や他機関などとの連携についても双方の立場や役割について理解が求められます。変化する社会の動向に対応できる図書館職員を育てる体制が望まれます。

また、対面朗読や障害者用資料の製作などは、図書館とボランティアとが協力して取り組まれています。ヒアリングのなかでは、同じような悩みを持つ当事者同士のサポート体制を求める意見もありました。引き続き他部局とも連携して、ボランティアの研修機会や情報及び意見交換する場を確保する必要があります。

関連する主な聞き取り内容を表に整理します。

テーマ	主な聞き取り内容
対面朗読	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用するのは専門書が多いため読める方が限定され、以前のボランティアは10年以上、現在も5年近く読んでもらっている。</li> </ul>
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門書も読める人材が、安定的に確保してもらえるよう期待している。</li> <li>・調べること、知りたいことができたときにコミュニケーションできることが大事。声をかけやすい雰囲気や、適切なスタッフ配置、それがわかる掲示など、そういうことが必要である。図書館員から紹介されて、適した資料の提供を受けたことがあり、そういう体験が誰でも受けられるようにしてほしい。</li> <li>・要約筆記など聴覚障害者とのコミュニケーションについて職員研修してはどうか。ボランティアの観点からになるが、協力できる。</li> <li>・録音図書製作のための自主研修に図書館の集会室を使えるのはありがたい。</li> </ul>

## (6) 市民（ボランティア含む）や関係機関との連携により充実を図る

将来にわたり持続的に図書館サービスを提供する上で、市民や関係機関との連携は有効であり、それによって図書館の取り組みも一層充実させられます。現在、点字図書や音声デジタイズ図書、さわる絵本の製作、対面朗読の実施、点字広報や声の広報を提供する過程で、ボランティアや障害福祉センターと連携し、障害のある人の情報アクセスの充実に取り組まれています。

令和3年（2021年）3月に図書館協議会での審議結果をまとめた「豊中市立図書館における高齢者サービスのあり方について（報告書）」において、地域包括ケアシステムにより地域の高齢者の課題を関係機関が連携して対応しているなか、図書館がつながっていくことの重要性を指摘しました。関係機関の相互連携により適切に支援が行われているネットワークと連携することで、高齢者への図書館サービスを効果的に提供することができ、ケアシステムもより効果的に機能することを期待しているからです。読書バリアフリーの取り組みを進めるにあたって、図書館だけで完結させるのではなく、連携による充実を図る視点が大切です。

今回の協議会での関係部局からの報告では、学習障害など印刷された文字認識に障害のある人が自分に適した読書方法を試すことのできる場所として図書館の資料や機器を活用できるという提案がありました。また車いす利用者の目線での図書館家具の選択や配置の重要性が、実際に利用している人の声として届けられました。情報及び意見交換をはじめとした、サービスの充実に

資するこのような連携には今後も積極的に取り組むことが求められます。

関連する主な聞き取り内容を表に整理します。

テーマ	主な聞き取り内容
点字図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>点字データが間違っているとそのデータを基に印字するとすべてで間違ってしまう。間違いを指摘してもデータの所蔵先に伝わりにくいため、そのようなことが起こるのではないか。作っている人と、使っている人の接点がないための問題。</li> </ul>
障害者用資料の製作	<ul style="list-style-type: none"> <li>製作者と利用者をつなぐ役割を図書館には果たして欲しい。利用統計など伝えてもらえると本選びの参考になる。</li> <li>製作物がどのように利用される人に受け止められているのか、その反応を知りたい。今後の製作タイトルを選ぶ参考にもできると思う。</li> </ul>
図書館内環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>高知のオーテピア（オーテピア高知図書館・高知声と点字の図書館・高知みらい科学館の複合施設）の良さは機能複合的などところ。障害福祉の窓口も併設されており、同時に複数の目的を果たせる。</li> <li>防音設備の整った録音室や機材置き場を設けて欲しい。自宅録音では周囲の雑音などへの配慮にも限界がある。</li> </ul>
市民、職員との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館協議会に介護職員や福祉部局の職員が参加しても良いのでは。</li> <li>保育所、幼稚園、小学校～高校との連携を深めていくと、よりサービスが広がると思う。</li> </ul>
学校図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べ学習で学校図書館を利用する。基本は本を借りる場所。ビブリオバトルでも利用。</li> </ul>

#### IV豊中市（仮称）中央図書館基本構想について

豊中市は基本構想を進める上で、（仮称）中央図書館の立地、施設・設備、図書館機能、複合機能など多岐にわたり市民との対話を通して計画を進めていくこととしています。今回のヒアリングの機会を利用して、図書館利用に障害のある人から（仮称）中央図書館や施設再編についてご意見をいただきましたので、それらを表に整理し報告します。

テーマ	主な聞き取り内容
（仮称）中央図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅の近くがいいが曾根・岡町・豊中駅のどこも駅周辺が複雑になっていて行けない。</li> <li>・ 対応・案内をしてくれるスタッフ（何をしに来たか聞いてくれる存在）が必要。</li> <li>・ 中央図書館では利用者が集まって話したりできる場所があるといい。自販機も置いてほしい。静まりかえった環境ではなく、普通に音があるほうがいい。カフェのような空間がいい。</li> <li>・ 対面朗読室は順番待ちしなくても利用できるよう複数あってほしい。手引きが無くてもたどり着けるよう、出入りに近く、障害物のない場所に配置してほしい。</li> <li>・ 障害者は同じフロアで用事が片付くようにしてあるだけでも良い。</li> <li>・ 対面朗読室のようなスペースがあればヘッドホンなしでも読める。映画も音だけで楽しめるが、観たいものは有料のものが多く。観た記憶が残っているものは声だけでも楽しめる。新しいものはガイドがないと難しい。</li> <li>・ 公共施設は最近、駅から近い場所にあるが、道幅が狭い、歩道がない、車の交通量が多いなど危険を感じる人が多い。また、点字ブロックの設置が適切でなかったり、メンテナンスが不十分だったり、ひとりで通うには困難を感じることもある。館内で移動する動線についてもしかり。図書館の再編を検討するのであれば、動線の安全について議会や行政できちんと検討して欲しいと思っている。</li> <li>・ 中央図書館では車いすの回転ができたり、通り抜けができたりするエレベーターにしてはどうか。</li> <li>・ 駅から図書館の距離は少々離れていても大丈夫。歩行の援助もいただけるので。駅からバスに乗り換えるのは困る。どこから乗るのか探すのにも苦労するから、利用のハードルがあがると思う。</li> <li>・ 誘導チャイムは便利。公共施設ではエレベーターにもよく付いている。地下鉄の地下出入口にある。信号だけでなく、駅名まで含めて案内してくれるものもある。人感センサーで対応するものもあって助かる。そこに何があるのか知らせてくれるほうが嬉しい。性別で分かれる場所などでは信号音だけでは足りない。</li> <li>・ 図書館の中でトイレの誘導などはトイレ内まで案内、説明しているか。ヘルパーさんに手洗い場所や、便器の位置、リモコン操作についてまで説明してもらうこともある。身体介助がある場合はどうか。トイレの介助は、まわりの声かけも必要。事故が起きないように十分な配慮を。</li> <li>・ 映画を観るスペースが欲しい。もしくは、音声ガイド付きの映画上映。また、デイジー図書の試聴機器があれば、図書館で試聴して気に入ったものを貸出し、自宅で聴くということもできる。</li> <li>・ シネマデイジーは映画の本編に解説を付けてあると思うが、中央図書館でそうしたものを上映する機会があるなら参加してみたい。</li> <li>・ アクセスは駅から近いと嬉しい。自分で企画したイベントでも会場を駅近であることは絶対条件。駅から離れると、ヘルパーの手配など手間がかかり、それだけで行く気持ちが削がれる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセスの面では、千里図書館と蛭池図書館は駅から直結のため行きやすい。岡町図書館は視覚障害者の立場からは遠い。自転車や自動車と同じ道を歩くのは緊張度合が違ってくる。</li> <li>・駅からの歩道が確保されて点字ブロックがあったとしても、今のように図書館と最寄りの駅間の送迎があるのは大事にして欲しい。立地条件も大事だが、ソフト面での支援も残して欲しい。</li> <li>・点字図書や録音図書がそこで読める環境を整えてほしい。</li> <li>・駅近であれば時間の無駄もないし、待ち時間も有効に活用しやすい。</li> <li>・名古屋市鶴舞中央図書館は公園にあるが、点字ブロックが公園内も敷いてあり、図書館に行くついでに公園を散歩することもできる。点字ブロックを有効に活用している例だと思う。</li> <li>・ワークショップなど、視覚障害者の意見を計画に取り入れる工夫が必要。</li> <li>・急行電車が停車することから豊中駅前が便利ではないか。</li> <li>・1人で電車に乗れないので、最寄りの豊中駅前にあると助かる。</li> <li>・図書館へ行くとしたら、誰かに付き添ってもらおう。見える人より障害が大きい、行きにくい面がある。練習すれば1人で行けなくはない。場所は駅から近い方が良い。</li> <li>・館内はカウンターなり職員さんがいるところまで点字ブロックがあるほうが便利。</li> <li>・館内の棚の配置とか覚えるまでは、職員に案内してもらえると助かる。</li> <li>・自宅の近くにできると嬉しい。岡町や曾根は駅から点字ブロックが続いているので便利だが、車や自転車が歩くにくさは感じる。歩道があって点字ブロックがある道だと、1人で行動するようになってからも安心できるが、中学校までの通学路など点字ブロックのあるエリアとないエリアがあり悩ましい。</li> <li>・岡町駅から図書館まで点字ブロックがつながっていません。リブ式区画線（でこぼこ白線）が途中まで敷設されていますが、図書館の入り口までは、それもつながっていません。</li> <li>・対面朗読室がすくなく、予約がとれないことがあります。</li> <li>・岡町図書館の対面朗読室は隣が警備員休憩室になっており、休憩の雑談声がきこえて、対面朗読に集中できません。</li> <li>・杖や車イスを使っていると、20～30分かかる距離では日常的に利用するのは難しい。</li> </ul>
図書館の再編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最寄りの図書館が引っ越したらもう来館できない。私が図書館に来館できているのも近くに住んでいるから。見えていたところと場所が変わってしまうとわからなくなってしまう。岡町図書館や千里図書館は入口がわからない。</li> <li>・対面朗読を最寄りの図書館で利用できなくなる点については気にならない。サービス自体がなくなると困るが。</li> <li>・中央図書館にすべてを集約すると、いろいろ弊害は予想される。中央図書館への集約を考えるなら、安全、安心してアクセスできる道や内装環境を十分考えてもらいたい。</li> <li>・読書の方法としてデータをダウンロードして聞くのと分けて考えているから、歩いて行ける生活圏内に公共図書館があって、対面朗読を利用できるのは自分にとっては大きなこと。そこでボランティアの方が読んでくれるサービスは残して欲しい。千里図書館も行けないことはないが、阪急沿線の中央図書館は遠く、最寄りの図書館での対面朗読は残って欲しい。</li> <li>・身近なところ、公民館等でも図書に触れることができれば、自分たち以外にも、例えば子どもなどの利用にも適しているのではないか。</li> </ul>

## おわりに

令和 5 年（2023 年）3 月「豊中市立図書館みらいプラン～すべての人の『わたしの図書館』をめざして～」が策定され、（仮称）中央図書館の候補地の選定とともに、図書館サービス網の再構築について、

- （1）「すべての市民の『わたしの図書館』へ ～図書館の多様な利用を提案～」
- （2）「知や情報とつなげる ～資源を生かし、市民の情報アクセスを保障～」
- （3）「未来へつなぐ ～持続可能な組織の構築～」

という 3 つの基本方針が示されました。加えて基本構想を具体的に進める新たなサービス展開のひとつとして、アウトリーチサービスの充実が掲げられ、郵送貸出の拡充などが具体的に示されています。

一方で、ICT 技術の実用化により誰もが容易に情報にアクセスできる環境になりつつあります。だからこそ図書館利用や情報アクセスに困難を感じている人のバリアを解消し、人と情報をつなぐ役割がこれまで以上に求められています。これから大きく変化しようとしている豊中市立図書館は読書バリアフリーの取り組みを充実させ、市民や他機関との連携を図り、市民の情報アクセスを支える機関としてサービスの質を高めていく責任があります。今後も当事者や支援者をはじめとする市民の声に謙虚に耳を傾ける必要があります。

さて別表 1 にまとめたように図書館の読書バリアフリーの取り組みは多岐にわたります。それらを必要とする市民の状況はそれにも増して多様です。協議会の限られた任期では具体的な取り組みを検討し、それぞれの課題を明らかにし、個別にこれからのあり方を提起するところまで至りませんでした。その作業は基本構想を推進する図書館に委ねることとします。それにあたり本協議会では 6 つのポイントを提起するとともに、「はじめに」で述べたように特に次の 3 点が重要と考えますので、改めてここに記し、報告を終わります。

- ◎ 図書館利用のバリアを取り除くとともに、市民の情報アクセスを保障すること
- ◎ 当事者の声をサービスに反映させること
- ◎ 読書バリアフリーの取り組みを通して、社会のなかでの多様性への理解を進めること

これらをサービス提供の根幹に据えることで、基本構想の推進によって図書館がすべての人の「わたしの図書館」になることを切に希望します。

## 資料

(別表 1) 豊中市立図書館の読書バリアフリーの取り組み

サービス内容	
対面朗読	視覚障害者等に資料等を朗読し、聴覚による読書を提供する。朗読ボランティアや職員が対面で行う。web 会議システムを活用したリモート対面朗読や、コロナ禍には IC レコーダーに朗読を録音し CD にて録音データを提供する代替サービスを実施した。
点字資料の収集・貸出	点字資料を収集し、図書館資料として整理し、貸出す。サピエ図書館等を通じて、相互貸借による提供を行う。点訳グループに点字図書作成を委託している。
録音資料の収集・貸出	録音資料を収集し、図書館資料として整理し、貸出す。サピエ図書館等を通じて、相互貸借による提供を行う。音訳グループに録音図書作成を委託している。
マルチメディアデージー図書の収集・貸出	音声に加え、テキスト（文字）や絵図等を収録したデジタル資料で、読み書き障害や自閉症等、活字による読書が困難な人に配慮したマルチメディアデージー図書を収集し、図書館資料として整理し、貸出す。
大活字本の収集・貸出	活字のポイントを大きくして、読みやすくした大活字本を収集し、図書館資料として整理し、貸出す。
郵送貸出	体が不自由なため図書館に来館が困難な人に、図書館資料を郵送で貸出す。
宅配貸出	体が不自由なため図書館に来館が困難な人に、図書館資料を宅配で貸出す。
情報提供・PR	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立図書館の新作図書の一部を音訳グループに音訳してもらい、希望者に提供している。近畿視覚障害者情報サービス研究協議会（近畿視情協）の新作情報（墨字版・点字版・デージー版）を提供している。</li> <li>・点訳資料と録音資料の新作案内を市広報や図書館サイトで紹介。</li> <li>・目録作成：点訳資料（点字版）、録音資料（点字版・テープ版・墨字版）、録音資料の内デージー図書（墨字版・デージー版）。いずれも図書館サイトで検索できる。</li> <li>・「目や体の不自由な方のためのとしょかんりようあんない」や「絵でみてわかる利用案内ようこそ図書館へ」（LL 版）等、利用者の立場に応じた利用案内の作成。図書館サイトに専用ページの開設</li> <li>・障害者用資料を集めて、手にとって理解を深めてもらう「りんごの棚」展示セットの作成・貸出</li> <li>・サピエ図書館や障害福祉センターひまわり等、必要なサービス窓口を紹介している。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害者等が触覚を活用し鑑賞できるよう工夫された、布や毛糸等の素材を用いて作成された、さわる絵本を収集・貸出（絵本を原本に作成）</li> <li>・4 か月児健診の対象となる赤ちゃんと保護者へのブックスタート事業にてプレゼントする絵本の点訳や、NPO ブックスタートに点訳絵本への交換依頼している。配布資料を音点訳したものを常備</li> <li>・動く図書館による支援学校や児童発達支援センター、児童発達支援事業所への巡回。おはなし会の実施</li> <li>・学校図書館を通じて点字資料の提供やマルチメディアデージー教科書の紹介、サピエ図書館の資料検索方法等の研修等</li> <li>・拡大読書器やリーディングルーペ、リーディングトラッカー、天眼鏡・老眼鏡等の設置</li> <li>・多目的トイレや点字ブロック、誘導用音サイン、障害者用駐車スペース、耳マーク、筆談ボード、磁気ループ等の設置</li> </ul>
※コロナ禍で一時休止したサービスも含まれます。	



(別表2) 関係者ヒアリング

	部会名	実施日	対象	方法
豊中市 身体障害者 福祉会	肢体部会	令和4年 4月13日(総会)	会員10人、来賓1人	面接・集団聞き取り
	ろうあ部会	同年 4月17日(総会)	会員12人、来賓10人程度	面接・集団聞き取り
	視覚部会	同年 5月6日(役員会)	会員10人	面接・集団聞き取り
※会員向けに書面ヒアリングも行いました。				
支援ボ ランテ ィア	要約筆記グル ープ	同年 5月31日(岡町図)	会員1人	面接・個人聞き取り
主な意見	<p>【肢体部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野畑でのホテルのタバコの取組みは、例年参加しているとホテルの減少から環境の悪化が如実に感じられる。そのような取組みは今後も続けてほしい。</li> <li>・宅配貸出や郵送貸出の利用に必要なものはあるか。冊数なども知りたい。</li> <li>・定期的に家族が借りてきてくれる(2人)ものの中から読書している。気に入ったものを借りてきてくれるとは限らない。絵手紙、相田みつを、料理の本というように自分の関心のあるテーマを伝えておくこともある。</li> <li>・身近なところ、公民館等でも図書に触れることができれば、自分たち以外にも、例えば子どもなどの利用にも適しているのではないか。</li> <li>・杖や車イスを使っていると、20～30分かかる距離では日常的に利用するのは難しい。</li> <li>・ひまわりを利用するようになって、交流に参加し、人とのつながりが増えた。</li> </ul> <p>【ろうあ部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホやモバイルPCなどにより情報収集できるため、以前より図書館を利用することは大幅に減った。</li> <li>・介護やほかのことで忙しいので、読書する余裕がない。</li> <li>・図書館は子どもが利用するというイメージ。成人すると仕事などほかのことがあるので、時間が合わない。</li> <li>・子どもの絵本や動画に、手話の字幕を付けて、提供してはどうか。</li> <li>・手話をテーマにした絵本も出版されている。「手話ではなそう」シリーズ) 探し絵を楽しむように、手話に触れ、学ぶことができる。</li> <li>・映画会や落語会に手話通訳を付ける場合は、台本をあらかじめ通訳者に提供しておくほうがよい。</li> <li>・書架分類では、手話の本は378に分類されることが多いが、ろう者にとっての手話は日本語や諸外国語と同じ言語にあたる。8類に分類されてしかるべき。両方の本棚に配架されていてもいいのではないか。</li> </ul> <p>【視覚部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央図書館の建設については耳にしたことがあるが、くわしくは知らない。</li> <li>・豊中市立図書館を利用したことがある2～3人 ない7～8人</li> <li>・対面朗読は、ひまわりで対応してもらっていた。今は、利用者が少ないこともあってか、ひまわりでの対応がなくなった。図書館の場所が分からないので知らない場所に行くより慣れた場所への移動は負担が少なく、利用しやすい。駅から建物まで危険の少ないロケーションだと通いやすい。</li> <li>・サピエの利用 スマートフォンでの利用1人、PC1人 知らない1人 音声をダウンロードして利用している。</li> </ul>			

- ・ラジオをよく聴く。
  - ・新刊情報は、サピエ、日本ライトハウス、点字毎日、大阪府立中央図書館で見ている。市立図書館からも情報が届く。日本ライトハウスや大阪府立中央図書館は登録をしてメールでの配信になるので、PCやスマホを使えない人は利用できない。
  - ・スマホが使えなくても、サピエ利用に適したリンクポケットで図書を読むことはできるが、これも通信環境に影響される。
  - ・豊中市でもスマホやPCを使う人、使えない人の差が大きくなっているので何とかしないとけないと思っている。講習会に参加したくらいでは、使おうというところまで進まない。
  - ・中央図書館に関して、Zoomでの対面朗読（ご本人はSkypeを利用）をもっと使えるようにしてほしい。対面朗読室がひとつしかない、利用したいときに使えないことがよく起こるから、複数必要。
  - ・電話でCDの貸出対応をしてもらっているが、電話でリクエストをしても良いのか。
- 【要約筆記グループ】
- ・出入口に守衛さんがいるときは質問しやすい。ただ常時待機している訳でもないし、本来の仕事の範囲を越えると思う。受付・案内のスタッフが望ましい。
  - ・調べること、知りたいことができたときにコミュニケーションできることが大事。声をかけやすい雰囲気や、適切なスタッフ配置、それがわかる掲示など、そういうことが必要である。図書館員から紹介されて、適した資料の提供を受けたことがあり、そういう体験が誰でも受けられるようにしてほしい。
  - ・カウンターに「耳マーク」があって、筆談できるということが伝わる。さらに入館口に掲出していると、安心して建物に入ることも可能になる。
  - ・手話によるコミュニケーションが可能な人は聴覚障害者の中でも多数派ではない。中途失聴者が手話を身に付けるのは簡単ではない。補聴器の性能にも限界があり、筆談によるやり取り、文書による伝達は正確性の点からも求められている。（手話による対応が不要という訳ではない）
  - ・聴覚が働かないため、より視覚に負担がかかる。掲示の文字も一定以上の大きさが確保されると良いと思う。
  - ・聴覚障害者との要約筆記などコミュニケーションの特徴や方法に関して、ボランティアの観点から職員研修に協力することもできる。
  - ・駐車場があれば利用者は拡大すると思う。自転車置場は屋根つきで、乗り降りに困らないようにしてほしい。（親子連れ、雨天時など）
  - ・入口に無人か、警備員か警備員さんがいるだけでは不親切。受付が無理なら、1階スペースから見通しをよくして、とまどう方に案内を（お声かけを）できるようにしてほしい。
  - ・車椅子、ベビーカー、手押し車など気兼ねなく安全に利用できるようスロープなどにしてほしい。
  - ・トイレは大切。おむつ交換、授乳室も含め、安心して利用できるようにしてほしい。
  - ・駅近で公園、コンビニ、カフェなど隣接していれば、より利用者増では。
  - ・館内表示、どこに何があるかの表示はわかりにくい。予約図書の並べ方もわかりづらい。
  - ・保育所、幼稚園、小学校～高校との連携を深めていくと広がると思う。
  - ・図書の入れかえ、図書館員からの手ほどき、交流など専門職から子どもたちへ
  - ・利用時間の拡大が望ましい。螢池は週2回19時までだが、20～22時とか延長してはどうか。
  - ・レコード鑑賞ふやしてほしい。
  - ・図書館協議会に介護職員、ひまわり職員、事業所職員など参加すれば、より情報が得られるのでは。
  - ・音のゾーニングとは？
  - ・情報リテラシー支援、具体的には？
  - ・小中学校のICT活用の学びへの推進支援、具体的には？
  - ・「耳マーク」は聞こえない、聞こえにくいことを知ってもらうために考案されたマーク。理解を深

	<p>めるため、設置してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・閲覧室、読書室の充実を</li> <li>・学習空間が狭く、学習の幅を広げられない。</li> <li>・書籍名がわかるものはネットで予約しているが、目的がなくても閲覧できる件数があれば楽しい。</li> </ul>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(別表3) 利用者ヒアリング (支援者含む)

実施日	場 所・方法	利用 内 容
<b>I 利用者</b>		
8/11	岡町図書館／対面	対面朗読 (リモート)
9/8	野畑図書館／対面	対面朗読、点字図書
9/14	岡町図書館／対面	対面朗読、点字図書、録音図書
9/22	野畑図書館／対面	対面朗読
10/6	岡町図書館／対面	対面朗読、点字図書、録音図書
10/17	ひまわり／対面	点字図書、録音図書。製作図書選定会議参加
10/21	岡町図書館／リモート	対面朗読、プライベート音訳
11/	岡町図書館／書面	宅配貸出、墨字図書
11/	岡町図書館／書面	宅配貸出、墨字図書
12/10	庄内図書館／リモート	対面朗読 (リモート)
12/11	岡町図書館／対面*	点字図書 *本人と保護者同席ヒアリング
<b>II 支援者</b>		
5/31*	岡町図書館／対面 (提出時)	*要約筆記グループへの書面ヒアリング及びヒアリング
8/5	岡町図書館／対面	録音図書製作
9/29		
1/12	ひまわり／対面	点訳図書製作
テーマ	主な聞き取り内容	
・読書や情報取得手段について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JB ニュース、月刊府視協、点字毎日 点字毎日は墨字・点字・点字データ・デージー・テキスト版等の形態があるが墨字と点字版で事足りている。</li> <li>・週刊誌や月刊誌の記事について問い合わせても見つからないという返答で落胆することが多い。</li> <li>・岡町図書館の4階の点字図書室は資料を探しようがない。サピエに加入していない人も、図書館だけを窓口に行っている利用者も多い。目録の整備が必要だと思う。</li> <li>・館内に滞在して読書するためには入力した内容を音で知らせるパソコン (館内蔵書検索機) があるとよい。新しい拡大読書器 (拡大、音声化、印刷できる機器) が図書館に置いてあっていつでも使えたと助かる。</li> <li>・新聞 (一般紙) で書評を家族が読んでくれている。</li> <li>・市の広報も墨字版を家族が読んでくれる。学校司書がそれ (点訳図書の新着情報?) を見て紹介してくれる。間接的に利用している。</li> <li>・普通に生活していると教えてもらわないと情報が得にくい。</li> <li>・自分でスマホなどを使って検索している。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館に行くメリットは、検索でなく自由に本が選べること。でも本がいっぱいあるので逆に選ぶのが難しい。新刊だけでも目録があれば便利。</li> <li>・電車やバイクの本、ドラえもんなどの藤子不二雄作品が好き。生き物の本も最近読むようになった。</li> <li>・学校図書館で借りた本は学校の休憩時間に読んでいる。</li> <li>・ここ一年くらいで読書が好きになった。『電車で行こう！』を移動時間などに楽しんでいる、日本各地のことが出てくるため、地理学習の理解の助けになっている。</li> <li>・テレビは見えていることが前提の音声でしか聴けないため伝わりづらいが、本は説明や細かい描写があるので楽しめている。</li> <li>・情報や知識は本やテレビ、家族などから得ている。</li> </ul> <p>【用語】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※点字 JB ニュース：最新の新聞情報、福祉関係情報が主な記事（平日刊）</li> <li>※月刊府視協：大阪府視覚障害者福祉協会会報。福祉関係情報が主な内容</li> <li>※点字毎日：毎日新聞社が発行する週刊点字新聞。視覚障害者に関連のある福祉、教育、文化、生活等のニュースを本紙とは別に独自取材・編集されている。</li> <li>※サピエ、サピエ図書館：サピエ図書館は、視覚障害者等が利用しやすい電子書籍のデータや、どこの図書館が所蔵しているのかという情報をインターネット上で集約し、視覚障害者や点字図書館、公共図書館などの施設が利用できるようにした電子図書館。その電子図書館サービスを含む、支援事業のネットワーク事業が「サピエ」。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面朗読の利用について</li> <li>・対面朗読を利用するメリットは？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面朗読については読んでほしい資料がないので週1回で満足している。同じ人に担当してもらっている。ボランティアさんから情報をもらうこともある。</li> <li>・利用者が来館しやすい場所にリーディング室（対面朗読室）は設けるべき。出張所などの市の関連施設や、利用者自宅で実施してもよいのではないかと。</li> <li>・やりたいときに出来るように対面朗読室は複数あるといい。視覚障害者一人でも行けるように入り口近くや障害物のない場所に作ってほしい。・豊中に引っ越してきた当時、自宅からの同行援助を依頼して庄内図書館で対面朗読を利用し、CD のライナーノーツや郵便物、チラシ、カタログなどを読んでもらっていた。現在はコロナ禍だけが理由ではないが利用していない。</li> <li>・初期は CD を借りることもあったが、現在は対面朗読で、手持ちの資料や継続的に勉強するための資料を読んでもらっている。</li> <li>・図書館では、持ち込みの資料を読んでもらえるので助かっている。</li> <li>・頻度については週1回、予約制でも不都合を感じていない。</li> <li>・初期は対面朗読も利用がそれほどなく、読み手を毎週変えると提案されたが、非効率なので本1冊ごとに読み手を変えろという方法にしてもらった。</li> <li>・利用するのは専門書が多いため読める方が限定され、以前のボランティアは10年以上、現在も5年近く読んでもらっている。</li> <li>・週1回利用していて、ボランティアとの合間の休憩の雑談や、行き帰りの送迎時にする職員との会話も含めての対面朗読という認識で、楽しみにしている。対面朗読はそういう時間も大事なので、人と人とのふれあい、茶飲み話込みで考えている。</li> <li>・千里図書館の対面朗読室について、何度か使ったときに静音性は高い部屋だが音が拡散するという違和感があり、若干集中しにくかった。</li> <li>・野畑図書館の対面朗読室は、落ち着いて利用できる空間。</li> <li>・対面朗読を快適に利用しているし、これが今後も続いて欲しい。</li> <li>・朗読者が下読みをしているのは有難い。知らないことの下調べや、図表の読み方などあらかじめ工夫してくれている。対面朗読は同じ図書を一緒に読みといていく感覚が、サピエなど音訳図書を読む場合とは異なっている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2時間では短いと感じるときもあるが、他のことで忙しい。</li> <li>・ 点字図書になっていない時、早く読みたいときに利用。主に小説等で利用している。</li> <li>・ 繰り返し読むことは少ないので、対面朗読を利用している。</li> <li>・ 友達に対面朗読の利用を勧めたことがあるが、あまり反応は良くなかった。</li> </ul>
<p>・ リモート会議システム (Zoom) による対面朗読について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リモートでの対面朗読は機器の操作を教えてくれる人がいないとできない。多くの人が使用している OS も古いので、対応が無理だと思う。スマホなども生活用具に含まれるよう要望している。支援してくれる人があると頼れるが、そうでないと誰が面倒を見るのか。</li> <li>・ 仕事でリモート会議システムも使っているが、リモートでの対面朗読は、プライベート録音で音訳データを渡してもらおうのと大差ないと感じるので、あまり利用しようとは思わない。メニューとして選択できるようにしてあることは望ましい。</li> <li>・ リモート会議システムを用いた対面朗読は、利用してみたが違和感が強かった。声だけでは、相手を認識できないため、今後利用しようとは思わない。</li> <li>・ リモートでの対面朗読に違和感はない。家から離れた場所だと、来館に要する時間を節約できる点が良い。終わってから、朗読ボランティアと買いものをしたりすることはできなくなる。</li> <li>・ 移動にかかる時間が不要なため在宅利用できる点でかなり便利。継続してリモートでの対面朗読を利用したい。</li> <li>・ (宅配利用) 今のところ利用する予定はない。</li> </ul>
<p>・ 点字図書の利用について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 点字図書はじっくり読む感じ。今は点字データを使って音声で読むことがほとんど。点字図書のほうがタイトル数が多いため、それらが点字データになったものが増えるともっと便利になる。Windows に移行するときにそれまでの Dos 形式のファイルを全て移行できていないのはもったいない。それらがデータで今も読めるのにとすると残念。</li> <li>・ 点字本があるうちにデータ化しておく必要性を強く感じる。点訳されているものから点字データに移すだけなので比較的簡単に点字データ化できるはず。</li> <li>・ 点字データが間違っているとそのデータを基に印字するとすべてで間違ってしまう。間違いを指摘してもデータの所蔵先に伝わりにくいため、そのようなことが起こるのではないか。作っている人と、使っている人の接点がないための問題。</li> <li>・ 点訳図書は・読みたい気持ちはあるがサイズの郵便受けに入らず、不在にできないため受け取りが不便で音訳図書を選んでいる。ただ、点字のルールは何年かに1度変わるので読み続けるとわからなくなる。そうならないよう、点字に触れる機会という意味でも点字雑誌の郵送を利用している。</li> <li>・ 点字は大好きだが、点字に触れる時間は減っている。</li> <li>・ 固有名詞、外国人の名前など、点字で初めてつづりを確認できることもある。学齢期の人で言うと、英語のスペルを認識したり、数式を書いたりするのに点字が必要で、何よりも公的な試験では点字が読めないと受験できない。学校教育において点字で勉強し、点字で考えて点字で文章を書くのは重要だが、社会人になって必要かというのとは別の問題。今でも電話番号等のメモは点字でとるが、電子の機器 (ブレイルメモ) を使っている。逆に専門書などは考えて読まなくてはいけないもので、行きつ戻りつしながら読むようなものは点字が向いている。</li> <li>・ 読書のスタイルが変わってきた。以前は転居先を探すときに郵便局に近いということもポイントだったが、点字図書を返すということを想定する必要性もそれほどなくなってきた。</li> <li>・ 点字の図書が岡町にしかないのが困る。東豊中や、千里、野畑図書館に行っても点字の蔵書がないのが、とても困っている。たくさん置いて欲しい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点字図書は返却のため郵便局に持ち込むのに苦労するから、利用を敬遠しがち。</li> <li>・点字は速く読むこともできるし、じっくりも読める。点字で読むと、内容が頭に入りやすいように感じている。</li> <li>・点字は視覚障害者の文字という意識があり、もっと利用のすそ野を広げたい。</li> <li>・小説等 1 回切りで済ませる本は、対面朗読で読んでいる。好きなタイミングで繰り返し読む場合や、しっかり理解したいもの、勉強したいもの（例：数式が入っているもの）は、点訳を依頼したりして利用している。</li> <li>・ほぼ点字図書を読んでいる。たまに音声デジター図書を読むこともある。音声で理解が難しそうな本は、点訳図書を利用する。</li> <li>・塾のテキストを点訳して利用している。</li> <li>・読むものが残っている間に次を用意している。返却について、郵便局以外にコンビニなど対応可能な窓口が広がった。返却時の集荷などのサービスがあれば今後自立した時に助かる。無料なのはとても有り難い。</li> <li>・ドラえもんなどの漫画は映画化されたものはノベライズ作品から点訳されることも多いが、通常の漫画単行本の点訳はあまりなく、視覚障害者の集まりの中でも点字で漫画が読めないことは話題になる。セリフと状況説明のあるテレビや映画の副音声程度の補足説明付きの点訳で読めるだけでも楽しめる。細かい体の動きなどの補足説明は、その後の物語の展開に関わる場合にあれば良い。</li> <li>・点字図書の受取については今のところ不便は感じていない。留守中は玄関先に置いていってくれる。</li> <li>・ブレイルメモが使えるようになると自分でダウンロードしていつでも読めるようになる。</li> </ul> <p>【用語】</p> <p>※ブレイルメモ：点字文書の作成・編集、音声図書の再生・録音などの機能がある。本体には点字を表示する点字ディスプレイを備えている。</p>
<p>・録音図書の利用について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音訳図書ではシリーズもので、固有名詞の読み方が違っていたり、途中の巻が抜けていたりする。</li> <li>・録音図書がカセットテープの時は速読できるのでカセットテープを選ぶこともあった。</li> <li>・鉄道雑誌 2 誌の音訳図書を利用中。</li> <li>・音声デジター図書やマルチメディアデジター図書を読んでいる。児童書を読むことが多い。</li> <li>・早聞きはしていない。しっかり聞く箇所は速度をゆるめたり、戻して聞き直したりしている。しおり機能は使っていないが、音声デジター図書は階層ごとにデータ編集されているので、読みたいところから読み始めることができている。</li> <li>・現在の読書は主に点字図書。音訳は速度についていくことが必要だし、聞き始めると音訳のほうに偏りかねないため、読める間は点訳での読書を続けさせたい。</li> </ul> <p>【用語】</p> <p>※音声デジター図書：電子書籍のひとつ。目次や項目ごとに読みやすいようデジター編集を施した録音図書。</p>
<p>・プライベート録音</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライベート録音の依頼先がよくわからない。</li> <li>・時間がかかるのでできるころには忘れてしまっている。</li> </ul> <p>【用語】</p> <p>※プライベート録音：録音図書などの製作を個別に受付けて製作すること。年間 30 タイトルの市委託録音図書や、ボランティアグループの自主製作図書と分けている。</p>
<p>・さわる絵本について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さわる絵本も借りている。イメージしにくい絵のものは、触れた感触だけでは理解で</li> </ul>

て	<p>きない。わかるところを読みすすめる感じ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漫画をそのままデコボコにしたようなものは伝わりづらい。触る絵本も素材の違いなどを小さい頃は楽しめたが、今はひとつひとつに説明が必要になり、読むのに時間がかかるため文章化したものの方が読みやすくなった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストデイジー</li> <li>・シネマデイジー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シネマデイジーなど、防音で良い音で聞ける部屋が利用したい人が複数いても同時に使えるようにいくつかあるといい。晴眼者と障害者分けずにどちらも使えるようにしたらしい。</li> <li>・映画（シネマデイジー）を聞く。場面展開や役者の動きなどの解説が追加されていて、耳で聞いて楽しむことができる。「となりのトトロ」で、解説がされていて、驚いた。</li> </ul> <p>【用語】</p> <p>※テキストデイジー：音声に代わり、文字データを読みやすいようデイジー編集したものの。読みあげソフト等を用いて、耳で読書する。</p> <p>※シネマデイジー：映画の音声データに加え、登場人物の動きや場面転換について音声解説を追加したもの。CDやダウンロードにより視聴する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・サピエ図書館について</li> <li>・国立国会図書館の視覚障害者等用データ送信サービスについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サピエはパソコンで利用している。パソコンのOSがXPのままなので困ることはある。サピエは、XPを利用している登録者が多いためサイトの仕様をXPにも対応させている。豊中市立図書館のサイトは対応していない。電話をかけて対応してもらうので困っていることはないが、「サイトを見てください」とばかり言うのは問題だと思う。</li> <li>・サピエ図書館について、登録はしていたが、個人的には留学した際によく使うようになった。</li> <li>・普段の読書はほとんどサピエ図書館を使っている。</li> <li>・サピエ図書館を利用している。シネマデイジー（映画）を楽しんでいる。</li> <li>・サピエ図書館はハンディサイズのプレクストークを使って利用している。</li> <li>・サピエ図書館はipad、iphoneでも利用している。</li> <li>・サピエ図書館にないものは、図書館経由で音訳図書を取り寄せたり、対面朗読を利用したりしている。</li> <li>・サピエ図書館を利用することで、視力を失う前よりたくさん読書するようになった。就寝前や移動中に聞くこともできて便利。</li> <li>・サピエは良く利用している。</li> <li>・点訳の着手済み完成予定日（サピエ図書館）が当てにならない。完成しないことある。</li> <li>・学校の先生から案内はあったが、今のところサピエは利用していない。</li> </ul> <p>【用語】</p> <p>※サピエ図書館：項目1【用語】</p> <p>※国立国会図書館の視覚障害者等用データ送信サービス：サピエ図書館と同じく、インターネット上で、視覚障害者や公共図書館などの施設が利用できるようにした電子図書館。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報メディアや機器との関わり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Youtubeで自動車情報を得ている。J:comリンクを利用している。リモコンで音声入力して使える。Googleアシスタントに話しかける感じ。</li> <li>・点字キーボードの付いた、各種記憶メディアも使える多機能な電子手帳もある。文書を作成し音声で読み上げさせることも、点字データにして点字プリントにも対応している。健常者とのコミュニケーションにも対応しているのだが、安くて定価は40万円前後する。豊中市の給付対象は重複障害の人で、視覚障害単体の自分は対象外だった。</li> <li>・携帯型プレクストーク（デイジー図書視聴機器）の基本的な使い方はすぐに習得できた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ipad を使って、Youtube を見たり、ボイスオブデイズで読書したり、映画を観たりしている。便利なので人にも薦めたいと思う。</li> <li>・インターネットに接続できる機器は持っているが、電話や電子メールが使えるので、困ってはいない。図書館からは電話により図書を送ってもらえる。</li> <li>・読書専用機器（携帯型プレクストーク）を使っていたが、今はスマホひとつで事足りている。</li> <li>・普段はスマホを使用している。パソコンは対面朗読の時に、同時に作業する時に使っている。スマホ、パソコンが新しいバージョンになってもあまり変えていない。</li> <li>・音声デイズ図書を聴くときは、プレクストークを使用している。</li> <li>・テレビで漫才を聴いたり、タブレットを使って youtube で車の整備について聴いたりしている。OK グーグルなども使いこなしている。</li> </ul> <p>【用語】</p> <p>※プレクストーク：音声デイズ図書を視聴する機器。インターネットに接続できる機種もある。</p> <p>※ボイスオブデイズ：iphone 等でサピエ図書館を利用できる有料アプリ。</p>
<p>・読書機器の多様化に合わせた利用方法のレクチャーを図書館に期待するか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声デイズ図書は置いてあるのに再生するための機械が無い。利用者が機器を持って来ないと聞けないのはおかしい。一緒に置いておくべき。</li> <li>・スマホでデイズ図書が読めるよう使い方を教えて欲しい。対面朗読で使い方について取扱説明書を読んでもらいながら使えるよう支援してほしい。</li> <li>・スマホの使い方に慣れず、日本ライトハウス情報文化センターで講習に参加しているが、有料なので習得できるまで通い続けるのは厳しく感じている。</li> <li>・視覚障害者でも Youtube など上手に使いこなしている人もいて、感心している。利用できる人、できない人の格差は広がっていると思う。図書館のサービスとして機器を利用できる環境を提供するというのも意味があると思う。</li> <li>・ICT の利用は個人差があるが、パソコンも使っていたのであまり問題なかった。スマホは使えていないので、技術の進歩に取り残されつつあるとは感じている。機器の利用については視覚障害に関係なく課題だと思う。</li> <li>・機器の講習会を最寄りの図書館でしてほしいというニーズはあると思う。当事者が教えてくれるような場になるとなお良い。</li> <li>・使い方をじっくり学べるなら、操作方法を身につけて、いろいろ利用してみたい。現在は強くその必要性を感じている訳ではない。機器やサービスの利用に関する講座は1回で覚えられない人に向けたプログラムが必要。教えられる人の数が少ないと聞いた。</li> <li>・使い始めは日本ライトハウスの無料体験講座を利用した。初歩の初歩以降は試行錯誤しながら、使い方を習得した。</li> <li>・機器の設定などは日本ライトハウスの窓口でもらった。機器の操作も難しくない。日常生活用具の給付対象でもあるので、費用負担に対してメリットが大きいと感じている。</li> <li>・白杖支援者が4月から来なくなったので、すぐに聞ける人が少なくなった。PC 操作など気軽にたずねて、教えてもらうことができていたのだが。</li> <li>・いよいよ視力がなくなろうとしている。PC 操作をキーボードでできるよう練習している。PC ソフトもそれぞれに操作方法が異なる場合もあって、それぞれに習得する必要がある点は不便を感じている。Excel の操作が別の表計算ソフトで共通でないこと。</li> <li>・機器の使用感など交流しながら、情報交換できる機会があれば参加してもよい。</li> <li>・スマホもパソコンも使い始めの頃、日本ライトハウスへ講習を受けに行った。講習を受けないと使用方法が特殊なので、他の人に聞けない。</li> </ul>



<p>・豊中デジタル図書館の利用について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子書籍目録がなく、どんな本を所蔵しているかわからないので利用できない。</li> <li>・電子書籍が利用できるのは知らなかったが、テキスト版サイトもあり非来館型のサービスで便利だと思う。</li> <li>・サービス自体知らない。</li> <li>・試し読みができるの良い。</li> <li>・利用したい。</li> <li>・知らなかった。興味がわいたので、使ってみたい。</li> <li>・利用したことはない。音声読み上げ機能もあるとのことだが、耳での読書に慣れていないからスピードを調整する必要があるように思う。</li> </ul>
<p>・オーディオブックの利用について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーディオブックはまだ使っていない。スマートフォンが使えるようになったら使ってみたい。</li> <li>・個人的には利用していない。使い勝手が良くないということもあるし、ほかで読書できているので使っていない。</li> <li>・Kindle や epub 形式（一般的な電子書籍の規格）の電子書籍を読んでいる。スマホで読んでいる。</li> <li>・オーディオブックは聞いたことがあるが、利用していない。まだよくわかっていないというもある。点字が読めるのでまず点字図書を利用し、無ければその次となる。点字が上手じゃない人がいるのでそっちの需要が大きいと思う。</li> </ul>
<p>・SDカードや電子メールによるデータの提供について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館から提供するデータを、SD カードで受け取ることについては可能。媒体が小さくて、扱いにくいという心配は無用。電子メールは使用していない。</li> <li>・サピエから個人的にダウンロードする時にはSDカードにデータを保存している。</li> </ul>
<p>・障害者用資料の製作について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サピエで調べると重複して製作しなくて良いので希望をそのまま作る必要はない。シリーズもので抜けているものを作って欲しい。点字図書として存在しないものは対面朗読で読むこともできるがそこまでして読もうとは思わない。過去の作品がアップされていると喜んで読む。要望は野畑図書館で伝えている。</li> <li>・Youtube で自動車に関する情報を得ているが、目でしか分からない情報が多い。外観や内装、ボタン装置の解説など細かい情報が掲載されている本や雑誌をリクエストで音訳図書にしてもらえると嬉しい。</li> <li>・図書館で製作する点訳図書・音訳図書の選定会議に出席している。</li> <li>・プライベート録音を依頼しても製作に時間（半年以上）がかかりすぎて、利用できる機会が限られている。</li> <li>・週刊誌など速報性の高いものがタイムリーに音点訳されるとありがたい。資格試験の教本などで視覚障害者が読める（アクセシブルな）図書が少ないと感じる。</li> <li>・テキストデータが付与された（アクセシブルな）電子書籍の出版も増えてきている。小説などにその傾向が強い。そうでないものを音点訳していく必要性を感じる。</li> <li>・点訳に時間がかかるので複数のボランティアさんに頼んでいる。特に理科や数学</li> <li>・子ども向けの日本の歴史漫画などを点訳漫画で読めたら取り組みやすい。</li> <li>・読めるタイトルが少ない。完璧じゃなくてもいいので、完成スピードが早い方がいい。周囲の話題について行けるなど、今読みたいものをすぐに入手できるようになればと思う。視覚障害者自体少ないので需要と供給が伴わないのかもしれないが。</li> <li>・製作者と利用者をつなぐ役割を図書館には果たして欲しい。利用統計など伝えてもらえると本選びの参考になる。（支援者）</li> <li>・製作物がどのように利用される人に受け止められているのか、その反応を知りたい。今後の製作タイトルを選ぶ参考にもできると思う。（支援者）</li> </ul>
<p>・宅配貸出について（印刷資料）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅まで届けてもらえるので助かっている。宅配日時を調整する時に日時の選択肢がもう少し広がると嬉しい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とても助かっている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)中央図書館に期待すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅の近くがいいが曾根・岡町・豊中駅のどこも駅周辺が複雑になっていて行けない。</li> <li>・対応・案内してくれるスタッフ（何をしに来たか聞いてくれる存在）が必要。</li> <li>・中央図書館では利用者が集まって話したりできる場所があるといい。自販機も置いてほしい。静まりかえった環境ではなく、普通に音があるほうがいい。カフェのような空間がいい。</li> <li>・対面朗読室は順番待ちしなくても利用できるよう複数あってほしい。手引きが無くてもたどり着けるよう、出入りに近く、障害物のない場所に配置してほしい。</li> <li>・障害者は同じフロアで用事が片付くようにしてあるだけでも良い。</li> <li>・対面朗読室のようなスペースがあればヘッドホンなしでも読める。映画も音だけで楽しめるが、観たいものは有料のものが多い。観た記憶が残っているものは声だけでも楽しめる。新しいものはガイドがないと難しい。</li> <li>・公共施設は最近、駅から近い場所にあるが、道幅が狭い、歩道がない、車の交通量が多いなど危険を感じる事が多い。また、点字ブロックの設置が適切でなかったり、メンテナンスが不十分だったり、ひとりで通うには困難を感じることもある。館内で移動する動線についてもしかり。図書館の再編を検討するのであれば、動線の安全について議会や行政できちんと検討して欲しいと思っている。</li> <li>・中央図書館では車いすの回転ができたり、通り抜けができたりするエレベーターにしてはどうか。</li> <li>・駅から図書館の距離は少々離れていても大丈夫。歩行の援助もいただけるので。駅からバスに乗り換えるのは困る。どこから乗るのが探すのにも苦労するから、利用のハードルがあがると思う。</li> <li>・誘導チャイムは便利。公共施設ではエレベーターにもよく付いている。地下鉄の地下出入口にある。信号だけでなく、駅名まで含めて案内してくれるものもある。人感センサーで対応するものもあって助かる。そこに何があるのか知らせてくれるほうが嬉しい。性別で分かれる場所などでは信号音だけでは足りない。</li> <li>・図書館の中でトイレの誘導などはトイレ内まで案内、説明しているか。ヘルパーさんに手洗い場所や、便器の位置、リモコン操作についてまで説明してもらうこともある。身体介助がある場合はどうか。トイレの介助は、まわりの声かけも必要。事故が起きないように十分な配慮を。</li> <li>・映画を観るスペースが欲しい。もしくは、音声ガイド付きの映画上映。また、デイジー図書を試聴機器があれば、図書館で試聴して気に入ったものを貸出し、自宅で聴くということもできる。</li> <li>・シネマデイジーは映画の本編に解説を付けてあると思うが、中央図書館でそうしたものを上映する機会があるなら参加してみたい。</li> <li>・アクセスは駅から近いと嬉しい。自分で企画したイベントでも会場を駅近であることは絶対条件。駅から離れると、ヘルパーの手配など手間がかかり、それだけで行く気持が削がれる。</li> <li>・アクセスの面では、千里図書館と蛭池図書館は駅から直結のため行きやすい。岡町図書館は視覚障害者の立場からは遠い。自転車や自動車と同じ道を歩くのは緊張度合が違って来る。</li> <li>・駅からの歩道が確保されて点字ブロックがあったとしても、今のように図書館と最寄りの駅間の送迎があるのは大事にして欲しい。立地条件も大事だが、ソフト面での支援も残して欲しい。</li> <li>・点字図書や録音図書がそこで読める環境を整えてほしい。</li> <li>・駅近であれば時間の無駄もないし、待ち時間も有効に活用しやすい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名古屋市鶴舞中央図書館は公園にあるが、点字ブロックが公園内も敷いてあり、図書館に行くついでに公園を散歩することもできる。点字ブロックを有効に活用している例だと思う。</li> <li>・ワークショップなど、視覚障害者の意見を計画に取り入れる工夫が必要。</li> <li>・急行電車が停車することから豊中駅前が便利ではないか。</li> <li>・1人で電車に乗れないので、最寄りの豊中駅前にあると助かる。</li> <li>・図書館へ行くとしたら、誰かに付き添ってもらおう。見える人より障害が大きい、行きにくい面がある。練習すれば1人で行けなくはない。場所は駅から近い方が良い。</li> <li>・館内はカウンターなり職員さんがいるところまで点字ブロックがあるほうが便利。</li> <li>・館内の棚の配置とか覚えるまでは、職員に案内してもらえると助かる。</li> <li>・自宅の近くにできるとう嬉しい。岡町や曽根は駅から点字ブロックが続いているので便利だが、車や自転車が多く歩きにくさは感じる。歩道があって点字ブロックがある道だと、1人で行動するようになってからも安心できるが、中学校までの通学路など点字ブロックのあるエリアとないエリアがあり悩ましい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の再編について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最寄りの図書館が引越したらもう来館できない。私が図書館に来館できているのも近くに住んでいるから。見えていたところと場所が変わってしまうとわからなくなってしまう。岡町図書館や千里図書館は入口がわからない。</li> <li>・対面朗読を最寄りの図書館で利用できなくなる点については気にならない。サービス自体がなくなると困るが。</li> <li>・中央図書館にすべてを集約すると、いろいろ弊害は予想される。中央図書館への集約を考えるなら、安全、安心してアクセスできる道や内装環境を十分考えてもらいたい。</li> <li>・読書の方法としてデータをダウンロードして聞くのと分けて考えているから、歩いて行ける生活圏内に公共図書館があって、対面朗読を利用できるのは自分にとっては大きなこと。そこでボランティアの方が読んでくれるサービスは残して欲しい。千里図書館も行けないことはないが、阪急沿線の中央図書館は遠く、最寄りの図書館での対面朗読は残って欲しい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館に機能面で備えたら良いと思うもの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書は基本的に家でしている。家から点字図書をもってきて読みたいが、図書館にはそのスペースがない。奥まで案内してもらおうのも気がひける。</li> <li>・岡町の点字図書室について、ジャンル名を本棚に掲示してはどうか。棚の厚みがあれば、点字テープで貼ることができると思う。「日本の小説」といった点字表記があれば良い。</li> <li>・障害者サービスが充実している図書館は障害当事者の正規職員がいて、視覚障害者もその図書館に期待や安心感を持つということがある。近隣では枚方市立図書館のような例があって、実績のある豊中市立図書館も当事者の正規職員を雇用して欲しい。</li> <li>・府立中央図書館のイベントスペースを利用することもあったが、気軽に使えて一般の人にも知ってもらえる空間なのが良く、高知声と点字の図書館も、1階に視覚障害者用の閲覧スペースがあり、来館者の目につくロケーションになっていて良かった。</li> <li>・高知のオーテピア（オーテピア高知図書館・高知声と点字の図書館・高知みらい科学館の複合施設）の良さは機能複合的なところ。障害福祉の窓口も併設されており、同時に複数の目的を果たせる。</li> <li>・気軽に立ち寄って館内で過ごせるスペースが必要。今は対面朗読室も予約での実施時には使えるが、急に思い立って必要な資料をガイドヘルパーと読もうとしても、そういう目的では使用できないと断られた。</li> <li>・リモートでの対面朗読が利用できない人のために、市内の図書館以外の施設（スポット）で対面朗読を受けられるような体制を整えてはどうか。視覚障害者が外出する機会のひとつとしての役割も大事だと思う。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来館型の利用は考えていない。今の利用方法で十分間に合っている。</li> <li>・触地図は、館内の配置を覚えてからそのイメージと合わせるのに有効。</li> <li>・点字ブロックは図書館までの動線、館内での動線のどちらにも必要。敷設のされ方が適切でないところもある。点字ブロックの敷設を希望しても地域との調整が難しいこともあると聞く。</li> <li>・音声信号も設置されているところが限られていて、設置申請してから設置されるまで時間がかかるようだ。</li> <li>・アップルウォッチを使いこなして行動している人もいる。将来的に信号と連動した機能が備わるという話も聞くが、バグのない安全な状態で使えるのかどうか気になるところ。</li> <li>・出入口に受付・案内のスタッフがいるのが望ましい。(支援者)</li> <li>・聴覚が働かないことで、視覚にはより負担がかかる。掲示の文字も一定以上の大きさが確保されていると良い。(支援者)</li> <li>・防音設備の整った録音室や機材置き場を設けて欲しい。自宅録音では周囲の雑音などへの配慮にも限界がある。(支援者)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民、職員との関わり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面朗読の来館時に朗読ボランティアや図書館職員との交流も貴重な体験だった。図書館サービスの発展につながるようなことには協力したい。</li> <li>・図書館の集会室で集まって、いろいろな絵本やストーリーテリング(語り)を楽しんでいる。点字で覚えたお話しを語ることもある。</li> <li>・電話により希望図書を依頼している。電話により図書館職員と会話できるのも良さと感じている。</li> <li>・障害福祉センターひまわりでの点字講習会はじめ、視覚部会の活動により社会と関わり、充実感を得ている。</li> <li>・対面朗読者の報酬が少ないと感じている。</li> <li>・対面朗読者から身のまわりのちょっとした情報を教えてもらえる。</li> <li>・図書館協議会に介護職員や福祉部局の職員が参加しても良いのでは。(支援者)</li> <li>・保育所、幼稚園、小学校～高校との連携を深めていくと、よりサービスが広がると思う。(支援者)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(対面朗読) ボランティアが長く固定している良さは、細かいところの確認はしなくても意思疎通ができること。</li> <li>・専門書も読める人材が、安定的に確保してもらえよう期待している。</li> <li>・要約筆記など聴覚障害者とのコミュニケーションについて職員研修してはどうか。ボランティアの観点からになるが、協力できる。(支援者)</li> <li>・録音図書製作のための自主研修に図書館の集会室を使えるのはありがたい。(支援者)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供</li> <li>・読書案内</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本点字図書館の「セレクトパック」のようなサービスを豊中もやればいい。</li> <li>・福祉会が年1回情報発信しているが、加入者が対象。年配の人が多。若い人は、会の存在を知らないか入りたくない人も。会費負担の経済的な問題もある。広報とよなか(音声デジ)を障害福祉センターひまわりで借りているが、福祉会に入会していない人にとって情報収集に有効。</li> <li>・(対面朗読の実施について) 当事者には意外と知られていないのではない。図書館サービスを紹介するためのイベントと当事者が企画するようなイベントを啓発的に行ってはどうか。以前に岡町図書館でも実施したようなイベントが定期的開催できれば来館も増え、最寄りの図書館で対面朗読が受けられると知れば、次からは利用してみようという人もいると思う。</li> <li>・市民が情報の受け手だけでなく、情報を発信する側にもなりつつある。発信を支援できる仕組みを図書館も考えて欲しい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館からの新刊案内は、図書の新刊情報という面と、流行りを知るといふ面と両方で役立っている。</li> <li>・(宅配利用) 年齢別の推薦図書など、HP も活用して知らせてもらえると活用したい。</li> <li>・新刊や難しい(専門的な) 本を見つけるのは難しいと感じる。</li> <li>・何の手がかりもなく自分で面白い本を調べるのは難しい。</li> <li>・図書館に行って本のタイトルを見て面白い本を選べたらなってしまうが、難しいと思う。今の方法でも読みたい本が見つかる。</li> <li>・見える人は斜め読みじゃないけど、ちらっと面白い本か判断できる部分があると思うが、見えないと同じようにできないため難しい。</li> <li>・本好きの友達でも、ピンポイントで読みたい本がなければサピエで読める本で十分と思っているのではないか。点訳、音訳されていない本の存在を知らないのかもしれない。</li> </ul> <p>【用語】</p> <p>※にってんセレクトパック：日本点字図書館が取り組んでいる、ベストリーダーや世界の小説など特定テーマの図書データをダウンロードして、データをまとめて希望者に提供するサービス。</p>
・イベントの PR 方法について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なかなか難しい。当事者団体も高齢化していると聞く。</li> <li>・個人情報の管理も厳しくなり、情報が気軽に共有されなくなった。</li> <li>・主催するイベントではメーリングリストを使い、全国を対象に案内している。SNS で広く発信するよりはメーリングリストで当事者に届ける方法が今も有効。</li> <li>・イベント情報の共有については難しい。定員オーバーになったようなイベントでも、開催について知らなかったという声も聞く。</li> </ul>
・これまでの読書環境について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人になるまで関東在住。中学生頃から学校の図書室以外に公共図書館も利用するようになった。当時、対面朗読サービスはなかったが、事前連絡で図書館職員に希望のものを読んでもらっていた。</li> <li>・点字本は寄贈や先生が点訳したものが主で、自分が読みたいものや流行のものは数年遅れで手元に届き、希望は出しにくい雰囲気だった。学校や公共以外に歩行訓練を兼ねて点字図書館を利用することで、ある程度興味関心のあるものを読むことができていた。</li> <li>・高校を卒業してからになる。今日も支援をお願いしている朗読ボランティアさんにお世話になっている。毎週 1 回の利用が、コロナ禍以降、月 2 回になった。</li> <li>・小中学生の頃は、晴眼者の姉が点字付きの絵本を一緒に読んでくれた。今はひとりで読むことが多い。</li> <li>・小中学生の頃は、点字図書を購入して、読書していた。</li> <li>・箕面市(勤務先)でも豊中市(居住地)でも電話により希望図書を依頼し、郵送により貸出、返却を利用。非来館で利用できるのが便利と感じている。電話により図書館職員と会話できるのも良さと感じている。</li> <li>・友達や家族、学校司書に紹介された本、自分で好きな作家等検索して読んでいる。</li> </ul>
・送迎の際に気をつけること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の意見としては、最寄りの図書館までの道は確かに歩きにくいけど、慣れてはいる。点字ブロックは基本 1 人で歩くときに使うから、一緒に歩くときは凸凹を避けることを優先して欲しい。声かけも場合によるが、ひじの動きである程度伝わるので、そんなに気を遣わずとも良いと感じることもある。</li> </ul>
・筆談や手話について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中途失聴者が手話を身につけるのは簡単ではない。筆談や文書による伝達は正確性の点からも求められている。(支援者)</li> </ul>
・学校図書館の利用 ・授業、教科書、試験について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館は、たまに利用。司書から本を紹介してもらったり、予約してもらっている。</li> <li>・調べ学習で学校図書館を利用する。基本は本を借りる場所。ビブリオバトルでも利用。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は点字の教科書を利用している。</li> <li>・点字の上手でない生徒へは点字を覚えるまでは読み上げで対応</li> <li>・調べ学習に取り組む時、本で見つからない場合は ipad で検索している。</li> <li>・試験は、すべて問題も解答も点字。英語はリスニングと筆記。ボランティアさんや視覚障害者の方が読み上げて、それを先生が聞いて採点する。</li> <li>・塾に行くのは難しいので、家族が使用していたテキストを点訳して一人で勉強している。</li> <li>・市立小学校に点字プリンターがあり、試験問題は先生が点訳してくれる。理科の問題はYWCAに依頼。点字で回答し、それを採点してもらう。他にもおたよりや通知表などは研修を受けた上で先生が点訳。教科書も点訳されたものを使用している。</li> <li>・豊中市は環境に恵まれているように感じる。点訳された印刷物なども用意され、本の情報なども先生が教えてくれる。</li> <li>・学校図書館に点字図書の本棚はあるが読みたいものがなく、あまり利用しない。同級生に点字が読める子がいるので興味を持って読んでくれることもある。定期的に入替えされている。</li> <li>・今は自分で選ぶより周りから勧められたものを読むことが多い。今後は自分で読みたいものを見つけられるようになって欲しいし、それが点字図書で読めると良い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(おすすめ) 子どもは買った本をくり返し読まないで、いろいろな本を試しに借りて読ませてみると、興味が広がって良いと感じている。</li> <li>・書面での回答は手書きだと骨が折れるので、スマホやパソコンから回答できると良い。</li> <li>・障害福祉センターひまわりは利用していない。</li> </ul>